



3年学年だより

発行日:令和6年 11 月29日(金)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

学校長:星野 浩 NO. 7

生徒会役員選挙が行われました！

11 月 19 日(火)に新生徒会本部役員を選出する立会演説会が行われました。今年度は Google Meet を活用して演説会が実施されました。画面上を通して、全校生徒の前に立って話をするのは、とても勇気のいることです。候補者たちにとって、それぞれの想いを熱く、そして丁寧に伝える素晴らしい場となりました。その言葉を聞く生徒たちの眼差しも真剣そのもの。同日に投票した結果、次期生徒会本部役員が以下の通り決定しました。

【12 期 新生徒会役員】

生徒会長

役 員



12 期生徒会本部役員の皆さん

今年度、生徒会本部は「 掴め！君の大チャンス 」という生徒会目標を掲げ、全校生徒が身近にあるコミュニケーションの機会を見逃さず、積極的に関わり合えるように努めています。南高祭展示の部では、高校生と協力してスタンプラリー活動を行いました。また、例年は年に 1 回の開催となっていた全校交流イベントを年 4 回実施し、継続的な関わりの場を設けています。9 月の 70 周年・10 周年記念イベントの際にも全校イベントを実施しました。12 月から 3 月までの 4 カ月、現役員と新役員がともに活動することで、生徒会活動の引継ぎとパワーアップを目指していきます。

今後、本部役員が附属中生の代表として活動していきますが、附属中学校を作っていくのは全校生徒のみなさんです。これまで、附属中の先輩方が積み重ねてきた伝統を引き継ぎつつ、より良い学校にしていけるために、一人ひとりが学校生活について、考えていくことが必要とされてきます。さまざまな生徒会活動(各種委員会活動や、クラスの係活動、学校行事など)の一つひとつがみなさんにとっての成長のチャンスです。創意工夫のある生徒会活動を通し、附属中生が心身ともにより大きく、たくましく成長することを願っています。



生徒会本部役員の皆さん

生徒会役員さん 引き継ぎ中

生徒会長： （３－２）

あっという間に月日が流れ、中学校生活も残り約４ヶ月です。私がこれまで中学生徒会本部として、色々な経験をしてきて学んだことは計画性と情報伝達の大切さです。何をするにも一つひとつステップを踏んでいくことが必要で、そのためには計画を立てて、様々な想像をしつつ、その計画の通りに進めていくことが重要だと感じました。生徒会本部役員は六人しかいないので、少しずつ、やることを整理して活動してきました。今年度は全校企画を４回もやると意気込んだので、多くの情報を全校にどうおろすか、初めて聞く人の気持ちになって考えながらやってきました。こうして活動できているのも皆さんが協力してくださっているからです。ありがとうございます！残りのＳＰＴも楽しんで大チャンスをつかんでください！

会計： （３－１）

選挙が終わり、１２期生徒会本部が発足した姿を見ると、私が立候補して当選したときからもう一年も経つのかと思います。肌で感じたことは、「変革期」に我々がいますことです。再来年度より高校の募集が停止となり、学校のあり方も大きく変わります。ですが、生徒会の制度上のひずみが各所に残るのは確かです。先の選挙を例にして考えると中学三年生が高校の選挙に対して選挙権がないことなどが挙げられます。「変革期」と聞くと今より不便になってしまうのではないかという不安を与えますが、その一方変えやすい時期でもあると思います。それこそ南高祭や体育祭のシステムを変えること事態不可能ではないと思います。せっかく書ける機会があったので思うことを書きましたが、生徒自らが学校を作れるようになると素敵な学校になると思います！！

書記： （３－３）

学年だよりに載せる、とこの原稿用紙を受け取り、生徒会本部役員になってから一年もたったのか、と驚いています。この一年あっという間でした。活動の中で、印象に残っているのは１１期生徒会本部として最初の企画委員会です。生徒会のしくみや生徒会本部の役割を、まわりは熟知しているのに自分は知らない、資料の作り方や印刷の仕方もわからない。心の中は不安でした。また、企画委員会で生徒総会、ミニ総会の説明のあと、１０期の先輩に質問を投げられ、本部として情報伝達の課題を感じました。そんな企画委員会から一年がたち、解決できた課題もまだ残る課題もあります。今までの成長には自信を持ちつつ、あと４ヶ月、よりよい活動ができるよう、最後まで全力でがんばります！！

副会長： （３－４）

本部役員になってから、生徒会活動に関わる多くの人を見たり、関わる機会が増えました。生徒会室に入ると、作業をこなす高校の先輩や話し合う人の姿をたくさん見ることができます。時には人が多すぎて中学生のエリアが圧迫されているときもありました。生徒会本部もかなり活動頻度が多いのですが個性の強い人が多いので毎日飽きることがありません。いつも明るい人、誰とでも仲良くなれる人、何でも器用にこなせる人など…いろいろな人が集まってこの学校が成り立っている、ということを本当に痛感しました。今年は３年生なので委員会、部活動を引っ張ったり、中心となって活動することも多かったと思います。私も４月は不安でいっぱいでした。ですがここまで私たちが活動してこられたのも皆さんの協力あってこそです。今まで本当にありがとうございました！

図書館のお二人に話を伺いました

校長代理 中澤 務

11月5日から、昼休みの時間に南高図書館で「ビブリオバトル！」が行われました。各学年の代表者2名が、図書館にある本の紹介を3分間で行い、1分間のディスカッションののち、「どの本が読みたくなったか」集まった人に挙手してもらい、チャンプ本が決まります。（ちなみに公式ルールは本の紹介5分、ディスカッション2～3分。公式ルールがあることを初めて知りました…。）前日のチャンプ本がすぐに借りられていたりして、生徒の皆さんのビブリオバトル、そして読書への関心が高いことがわかります。図書委員の皆さん、ビブリオバトルの運営ありがとうございました。

ビブリオバトルを終えた図書館で、学校司書の先生、高校司書の先生にお話を伺いました。

中：お二人はどうして学校司書や司書を目指されたのですか。

高：もともと本が好きだったのと、人と関わる仕事がよかったので、以前は企業に勤めていたのですが、たまたま学校司書の仕事を見つけて、という感じです。

小：母と公共図書館に初めて行ったとき、こんなにたくさん本を全部読んでいいんだ、と感動したことを覚えています。子どもの頃、学校の図書室は鍵が閉まっている場所でした。学校図書館がいつでも使える場所になったらいいなあと思っていました。学校の先生にもなりたかったし、学校図書館で仕事ができるのは夢が叶ったともいえます。

中：ビブリオバトルは前からやっているんですね。図書委員の本の紹介は素晴らしかったです。

小：何を言うか1人で決め、勝ち上がって注目を浴び、みんなの前で語るというのがよい経験になると思います。勝ち上がる本を決めて、そのための主張が見られます。

中：南高・南高附属中の生徒の図書館利用はどんな感じですか？

高：中学生では、今年度すでに250冊以上借りて読んでいる人がいます。長期休みの前も、シリーズなど10冊まとめて借りていく人もたくさんいます。読む力がある生徒が多いなと思います。

中：！それはすごい！驚きました。図書館の利用について、生徒に期待することはありますか？

高：このような恵まれた図書館の環境です。中・高合わせた蔵書はとても幅広く、多くあるので、ぜひいろいろな本に出会ってほしいし、興味をもってもらいたいです。もしかしたら、将来の進路を見つけるきっかけになるかもしれません。また、本の配列は他の図書館もほぼ同様なので、検索機を使ったりしながら、ここで生涯にわたって図書を検索する力もつけてほしいと思っています。

小：図書館がふらっとくる場であってほしい。息抜きするスペースでもあるし、学習のスペースでもあります。南高・南高附属中の生徒は薦めなくてもよく読んでくれますね。授業でも活用してほしいと思っています。どれだけインターネットが普及しても、紙媒体、本はなくならないと思っています。さらに図書館を活用してもらえよう願っています。

中：お話しいただきありがとうございました。知の拠点として、安らぎの場所として、南高図書館の活用に一層期待しています。



みちをの独り言

11期の生徒会本部役員のみなさん、まだ少し任期は残っていますが、ひとまず新本部役員が選出されたということで今までお疲れ様でした。生徒会本部役員は「視野を広げる」といった人の成長に欠かせないことを人一倍考えている人達だと思います。自分のことから他者のこと、クラスのこと、学年のこと、学校全体のこと、というように考えられる範囲が広がっていくことは確実に成長につながります。ぜひともその姿勢を後輩たちに引き継いでほしいなと思います。ここまでやり切ってきた自分たちとサポートしてくれた学年の素敵な仲間たち、後輩たち、先生たちを大事にして残りの期間も「11期の本部役員らしく」学校全体に貢献してってください。期待しています。